

水車の里コース

大井手堰から分水された水路には、多くの水車が設けられていました。「仁比山水車」と呼ばれ、地形と城原川の豊富な水流を活かし、強い力を得るため独特な構造の水車でした。明治30年頃には、約60基もの水車が稼働していました。この水車は、製粉・精米・製材の動力源として、麵処かんざきの繁栄は、南部平野で生産された小麦と清涼な水、水の力を利用した水車により支えられていました。現在は、現役で稼働している水車は見られなくなりましたが、当時の水車の歴史を知るために水車や水車小屋が整備されています。

起点 仁比山公園 ~ **終点 仁比山公園**
行程 約2.0km

仁比山公園

↓公園より城原川に架かる愛逢橋へ

愛逢橋

↓橋を渡り、左折して階段を下りて、右へ約50m

①大井手堰

↓

②八大龍王碑

↓愛逢橋をくぐって南へ約100m

③水車台座跡

↓旧道を左折し、石畳み道路を右折し約50m

④水車台座跡

↓旧仁比山街道と県道の交差点へ

⑤水車台座跡

↓県道沿いの水路側(西側)を南へ

⑥水車台座跡

↓県道沿いの水路側(西側)を南下

⑦水車台座跡

↓県道西側に復元された水車の南へ

⑧水車台座跡

↓県道西側に復元された水車へ

⑨水車の里

↓県道より西へ右折し約50m

⑩水車の里遊学館

↓遊学館北の道路を西へ約200mで城原川遊歩道へ

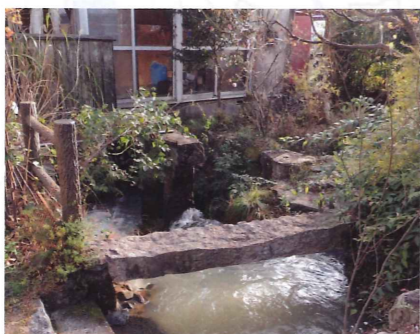
⑪城原川遊歩道

↓城原川東岸の遊歩道を北へ約1.0kmで愛逢橋下へ

愛逢橋

↓橋下より、階段を上りもみじの湯前へ、橋を渡り仁比山公園へ

仁比山公園



①大井手堰

城原川の水を東側に導くために、江戸時代に成富兵庫茂安により造られた堰です。天狗の鼻と呼ばれる分水施設を設け、東側に導く城原川東岸地区の水利の起点となる堰です。

②八大龍王碑

大井手堰の脇にある「八大龍王」碑です。仁比山護国寺不動院の筭海和尚により祈願され祀られ、この石をたわしで擦ると雨が振ると言い伝えられています。

③水車台座跡

最上流に設けられた水車跡で、上流側に2段の落差工があり、水車を据える台座が残っています。下流側の落差工は、右岸側に水流を調整する構造に作られています。

④水車台座跡

旧仁比山街道(参道)沿いに設けられた水車です。落差工は左右に分水される構造で、左岸側に水車が据えられ、水流が落ちる構造になっています。

⑤水車台座跡

県道と旧道が合流する位置にある水車跡で、落差工と水車台座の間に竿石があり、水車へ水を導く構造です。

⑥水車台座跡

上流に落差工を設け、水車と落差工の間に竿石を横断させ、水車に水を落とす中掛式構造の水車です。右岸側に水車小屋がありました。



⑦水車台座跡

上流側で水流が二分され、下流の落差工は左岸側に流れ落ちる構造に作られています。左岸に水車小屋の跡があります。

⑧水車台座跡

上流側に落差工が設けられ、下流側の現在の建物部分に水車が据えられていました。落差工の上流には、水量を調整する堰が設けられています。

⑨水車の里

平成4年から5年に整備された仁比山水車の繁栄を復元した公園です。水車と製粉小屋などが再現されています。

復元された精米・製粉施設

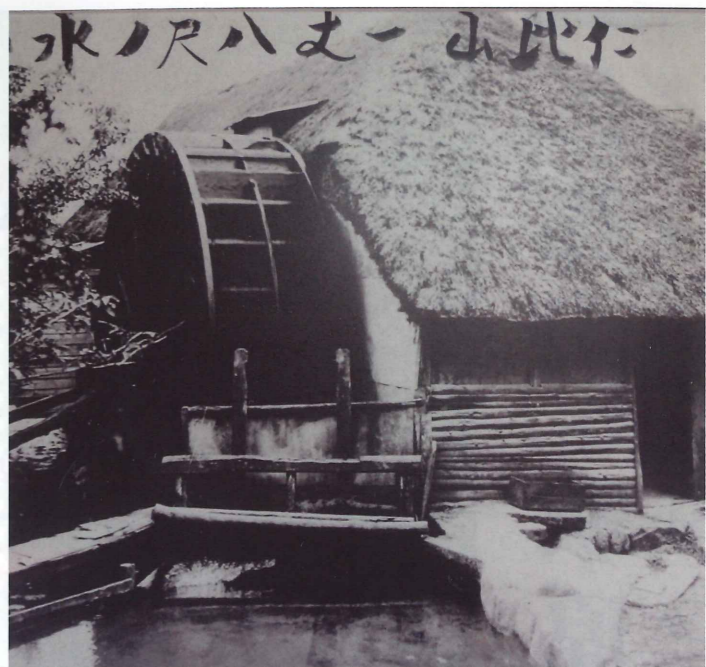
水車の里に復元された二連の水車の横には、水車の動力を利用した精米・製粉施設が復元されています。現在、この施設を利用して水車米の精米が行われています。

⑩水車の里遊学館

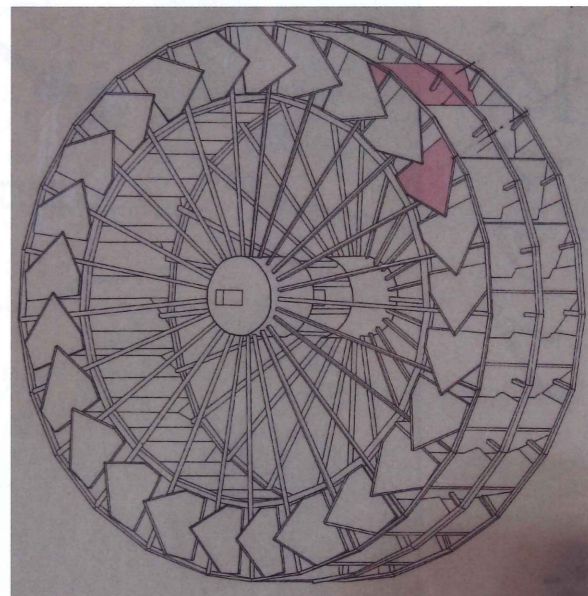
江戸時代から昭和30年頃まで稼働していた仁比山水車の歴史を紹介する施設で、外観は三連の水車を表しています。

⑪城原川遊歩道

城原川東岸に整備された遊歩道です。白角折橋より川沿いに仁比山公園まで行くことができます。川のせせらぎと野鳥なども観察することができます。



昭和30年頃に稼働していた仁比山水車の写真



仁比山水車の復元構造図



地元の小淵地区では、復元された水車の動力を利用した精米施設で地元産の米を精米しています。1kg入り500円で、九年庵の春と秋の一般公開時に販売されています。